

2 全体会 主催者等あいさつ・来賓祝辞

San-En-Nanshin Summit 2014 in Ensyu

○主催者挨拶

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議会長

浜松市長 鈴木康友



皆様、こんにちは。本日は、第 22 回となります三遠南信サミット in 遠州、今回は浜松が開催地ということで、SENA の会長として、また主催地の市長として、三遠南信地域の各地域からお越しの皆様を心から歓迎を申し上げます。この会も 22 回を重ねてまいりまして、今、さまざまな分野で三遠南信地域の連携の促進を図っているところでございます。特に最近の状況といたしましては、社会資本整備の効果が非常に目覚ましく出ていると、我々が期待していた以上の産業、あるいは観光面において効果が出ているということで、今日はそういう御報告もあろうかと思っております。

また、いよいよリニアの事業が本格的にスタートする時期になってまいりました。このリニアにつきましては、もちろん飯田市を中心とする南信州の皆様、待望の社会資本でございますが、これができますと東海道新幹線のダイヤが非常にフレキシブルに組めるようになって、通過交通が減る可能性がありますので、そうしますと我々にとっても、東海道沿線の東三河や遠州の皆様にとっても、これは大変に大きな社会資本整備になろうかと思

います。

これから、この三遠南信地域が、いろいろな形で社会資本が整備されることによって変化をしております。今回のこのテーマは、そうした社会資本の整備による社会環境の変化の中で、これをどうこの三遠南信地域の活性化に活かしていくか、こうしたことをテーマとして議論を進めさせていただきたいと思っております。

さて、皆様も御案内のとおり、今、日本は本格的な人口減少社会に入っております。あの衝撃的な、日本創成会議の人口問題分科会の座長でございます元岩手県知事の増田さんのレポートで、今の基礎自治体、市町村の約半分の 896 の自治体で 20 歳から 39 歳までの、いわゆる出産適齢期の女性の人口が、今後 25 年間に半分以下になるという衝撃的なレポートが出されました。当然、人口は激減をいたしますので、こうした 896 の自治体の多くが人口 1 万人以下となって、自治体としてなかなか成り立っていきにくい、いわゆる消滅可能性都市と位置づけられました。また、リストまで発表されたわけでございます。いよいよ、この人口減少という問題が現実のものとなってまいりまして、これはもちろん各自治体だけではなくて、国全体の課題として取り組んでいかなければいけないと思っております。国も「まち・ひと・しごと創生本部」というものをつくりまして、地方の創生、活性化並びに人口減少に歯止めをかけるために、今、本格的な取り組みを始めようとしています。

そうした中で、切り札の一つとなっているのが、いわゆる自治体間の連携、あるいは地域連携ということでございまして、今後は個々の自治体でいろいろな課題に当たるだけではなくて、自治体間の連携や広域の地域連携の中で、特に構造的な問題に対処していく、

そういう時代になったということでございます。既に総務省では、地方中枢拠点都市圏構想というものをつくりまして、地方にたくさん拠点をづくり、そこを中心にその地域の連携強化を図っていこうと、こういう構想もあります。そういう中で、この三遠南信地域の連携というものは国がそういうことを言い出す前から、もう20年以上にもわたりまして県境を越えた連携として取り組みが進められてきた、非常に先進的な取り組みだと思えます。

ますますこの時代、この連携が必要になってくる、そういう時代に突入したのではないかなと思います。そうした中で、平成20年に三遠南信地域連携ビジョンをつくりまして、その推進会議 SENA を設置いたしまして6年がたちましたが、その SENA をこの7月に新しくバージョンアップをいたしました。一つは、新しい構成員が増えたということ、それから幾つかあった組織、一つは三遠南信地域交流ネットワーク会議、もう一つは、三遠南信地域整備連絡会議という、この二つを統合いたしました。また、これから三遠南信地域の産・学・官連携の中でいろいろな事業を進めていこうということで、今後は皆さんも事業部会に参加いただいて、事業部会で具体的なプロジェクトを進めていこうということを、今、考えているところでございます。ぜひ、皆様におかれましても、この三遠南信地域の連携を促進するために、一層の御尽力を賜りますことを心からお願いを申し上げる次第でございます。

結びに当たりまして、第22回となります本サミットが有意義なサミットとなりますことを心から御期待を申し上げまして、御挨拶にかえさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

■三遠南信地域連携ビジョン推進会議副会長
浜松商工会議所会議会頭 大須賀正孝



皆様こんにちは。開催地の経済界を代表いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。

三遠南信地域の市町村及び商工会議所・商工会の皆様、そして日頃、地域おこしの文化活動を推進されている皆様には、お忙しいところ浜松にお越しいただきまして誠にありがとうございます。また平素、三遠南信地域連携ビジョン推進会議のために格段の御高配をいただいております来賓の皆様におかれましても本当にお忙しい中、ありがとうございます。

この三遠南信というのは、私はいつも思いますけれども長野県と静岡県とは隣ですが、今、非常に遠い隣になっています。長野県に行くには名古屋へ出てから行かなければならない。それで下の道を行くと、同じ位の時間が掛かっていく。これは、経済効果としては、何を置いても新東名を造るよりもこの三遠南信自動車道を早く造った方が、経済効果は素晴らしいと思います。長野へ行くにも、3時間掛かっていたものが1時間半で行けると思えます。半分の距離で行けるとということは、観光に関しても、途中で色々良い観光地、良い温泉もたくさんあり、すぐにも行ける。今は行こうと思っても、ちょっと時間が掛かるからということで、結局、敬遠されてしまう。自動車道が出来るとそこへ行くにも燃料代は半分で済む。半分で済むとCO2の削減にもなるし、経済的な支援も半分で済む、こ

これは大変なことで、これほど大きい経済効果というのには無いと思います。これは何かが何でも三遠南信自動車道を、全員で一生懸命頑張って1日も早く開通する。観光で旅行に行く人たちとか仕事に行く人たちの燃料代も、簡単に考えても年間300億円の経費が軽減されると思います。そこに観光客が増えて人の通行が増える、するとその2倍も3倍に経済効果が出てくる。何を置いてもこの三遠南信自動車道というのは、絶対にどんなことがあってもこれほど重要なものはないと思います。

今、安倍政権が地域創生と言っていますが、これがなくてできるわけがないと思います。何が何でも自動車道開通を早くしていただきたいと思います。愛知県と静岡県と長野県と一緒に、全員で力を合わせてこの三遠南信自動車道を1日も早く開通するために、それをより早くしていくことが日本の国のために、また浜松、豊橋、長野のためになりますので、一丸となって開通に向けての取り組みをしていきたいと思っています。本当に皆さん、ぜひ御協力をお願いいたします。私からは最後になりますけれども、皆様方の御繁栄と、本日お越しの皆様方の御健勝、御多幸を心から御祈念申しまして、簡単でございますけれども私の挨拶といたします。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 国土交通省中部地方整備局長

八 鍬 隆 様



皆様こんにちは。本日は、三遠南信サミット2014 in 遠州が、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、御出席の皆様には、日頃から三遠南信自動車道の整備を始めとしまして、国土交通行政全般にわたりまして特段の御理解、御協力をいただいております、厚く御礼を申し上げます。

三遠南信サミットは、遠州、東三河、そして南信州の三つの地域が県境を越えて連携を深め、一体となって振興を図るため、議会、行政、経済界、学識経験者、NPO、住民の方々などが一堂に会して議論をされるという、大変すばらしい画期的な取り組みであり、また、平成5年度に初めて開催されてから今回で22回目になるということで、長期間にわたり議論を重ね、しかも年々活発に活動され、大きな成果を上げられておられますことに深く敬意を表する次第であります。

御案内のとおり、第2次安倍改造内閣では「地方創生」を最重点課題の一つに挙げ、「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、長期ビジョンと総合戦略を策定することにしていきます。その総合戦略におきましても、地域連携が大きな柱の一つになっており、三遠南信サミットの取り組みは、まさに政府の総合戦略を早くから先取りした取り組みであると理解をしています。国土交通省におきましても地方創生に係る代表的な施策として、三遠南信連携について紹介をさせていただいているところであります。

また国土交通省では、こうした動きに先立ちまして長期的な国土づくりの理念、考え方を示した「国土のグランドデザイン2050」を作成しました。このグランドデザインの中で、地域のあり方として「コンパクト+ネットワーク」という概念を提示したところであります。まさに三遠南信連携は、地域間のネットワーク形成の非常に先進的な取り組みであり、それを具体的に推進するインフラの一つとして、極めて重要な役割を果たすのが三遠南信

自動車道であると理解をしています。

この三遠南信自動車道については、現在、全体約 100 キロメートルのうち、約 3 割が開通しているところです。残りの部分については、国直轄でやる部分と、地方公共団体が現道を改良する部分がありますが、国直轄の部分については、現在、飯喬道路の天龍峡インターから喬木インター、ことしの 3 月 8 日に起工式を行った青崩峠道路、そして佐久間道路・三遠道路の（仮称）佐久間インターから鳳来峡インターまでの区間について、現在、鋭意整備を推進しているところです。このうち、飯喬道路の（仮称）龍江インターから（仮称）飯田東インター間の延長 3.4 キロメートルについては平成 29 年度に、また佐久間道路の（仮称）佐久間インターから（仮称）東栄インターの間の延長 6.9 キロメートルについては平成 30 年度に、それぞれ供用開始する予定ということで公表しています。これらの区間については予定どおり開通できるよう、全力で工事に取り組んでいきたいと考えています。

また、唯一まだ事業に着手できていない区間の水窪北から佐久間間の延長約 20 キロメートルについては、ことしの 3 月に計画段階評価が終了し、さらにこの 10 月 1 日に環境影響評価方法書を公表・縦覧し、静岡県での環境影響評価の事務に着手したところであり、1 日も早い事業化に向けて、鋭意努力していきたいと考えています。

一方、新東名高速道路の愛知県側につきましては、平成 27 年度に完成する予定ですし、平成 39 年にはリニア中央新幹線が品川―名古屋間で開通し、長野県飯田市にも駅ができるということで、本当にこの地域は将来的に夢の広がる地域であると考えています。これらのインフラの高速性、利便性を生かして地場産業、観光、生活、医療、防災など、あらゆる分野にわたり地域の連携をさらに強めることにより、地域の、なお一層の活性化が可

能になるものと考えており、ぜひ今後とも、この三遠南信サミットの活動を継続、発展させていただきたいと心から期待を申し上げる次第であります。

国土交通省としましても、今後とも三遠南信自動車道の 1 日も早い全線開通を目指すとともに新東名高速道路、あるいはリニア新幹線の早期供用開始に向けて御支援を申し上げるなど、高速交通体系の整備につきまして皆様とも緊密に連携をとりながら、積極的に推進をしてみたいと考えております。また、来年早々からは国土形成計画の広域地方計画の改定作業が本格的に始まります。ぜひ、皆様の御指導、御協力をお願いする次第であります。

結びになりますけれども、本日の会議が出席された皆様にとりまして実り多きものになることを期待申し上げますとともに、三遠南信地域のますますの御発展、そして皆様のなお一層の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

■農林水産省関東農政局次長

小林厚司 様



皆さん、こんにちは。本日は、第 22 回の三遠南信サミットにお招きをいただきまして大変ありがとうございます。また、主催者である三遠南信地域連携ビジョン推進会議及び地元浜松市を初めとする関係者の皆様には、本

サミットが盛大に開催されますことを心からお祝いを申し上げます。御臨席の皆様におかれましては、平素から農林水産行政の推進に御理解、御協力をいただいていることを、この場をおかりしまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

また、今年の大雪や台風、御嶽山の噴火などにより被災されました地域の皆様には、心からお見舞いを申し上げますとともに、被災されました地域が1日も早く復旧しますよう、農林水産省としましても全力を尽くしてまいり所存でございます。

この三遠南信サミットは、本年で22回目の開催と伺っております。この三遠南信地域が一体的圏域として発展するため、県境を越え三つの地域の皆様が一堂に会して文化や歴史、産業振興など、多岐にわたる議論を長期の取り組みとして継続して取り組んでおられることに対し、改めて深く敬意を表するものでございます。

さて、農林水産省では昨年来、皆様方にも御協力をいただきながら、農地中間管理機構や日本型直接支払の創設を初めとする四つの改革を中心に、攻めの農林水産業の推進を図っているところでございます。関東農政局としましても局長を本部長といたしまして、関東農政局「攻めの農林水産業実行本部」を設置いたしまして、地域の皆様の声を丁寧に向いながら、農政改革を着実に実行してまいりたいと考えているところでございます。また、今年9月には、政府において「まち・ひと・しごと創生本部」が立ち上がりました。農林水産省においても人口減少を克服し、農山漁村のにぎわいを取り戻すことを目指し、関係省庁と連携をして取り組むことが重要と考えており、来年3月を目途に新たな食料・農業・農村計画とあわせて、活力ある農山漁村づくりに向けたビジョンを策定することとしております。こうした計画を踏まえ、農業・農村の発展に努力してまいり所存でございます。

さて、去年は、2020年オリンピック、パラリンピックの東京開催の決定や和食の無形文化遺産登録など、日本や、その文化に国際的な関心を集めるきっかけが生まれました。また、富士山が世界自然遺産に登録され、あるいは遠州地域では掛川市を中心として、皆様方が古くから取り組んでこられた茶草場農法が、昨年5月に世界農業遺産に登録をされました。この世界農業遺産は、伝統的な農業システムを認定することを通じて、その保全と持続的な利用を図り、次世代へ継承していくことを目的とするものでございます。今後とも地域の皆様方が茶草場農法を契機に、茶草場農法のブランド化や本地域の活性化に一層御尽力いただくことを大いに期待しておりますとともに、関東農政局といたしましても、地域の農業の振興に協力してまいりたいと考えております。

本地域では、渥美半島の菊、三ヶ日のミカン、遠州一帯のメロン、掛川や牧之原の緑茶など、全国に誇るバラエティー豊かな農業が育まれております。さらに、地域農業のブランド力を高めるべく、地元大学や企業との連携によるITを活用した次世代型園芸にも積極的に取り組み、食・農・健康を組み合わせた食の文化の確立を目指していると伺っております。本地域が目指される方向は、農林水産業の成長産業化による地域経済の活性化であり、まさに「攻めの農林水産業」そのものだというふうに考えております。関東農政局といたしましても、本地域での取り組みが全国の先駆けとして発展してまいりますよう、全力で応援してまいりたいと考えております。

今回のサミットは、「～変わりゆく社会環境のなかで～三遠南信の特色を活かした地域発展を目指して」をテーマに三遠南信地域連携ビジョンの実現に向け、市町村長を初めとする関係者の皆様方が意見を交わされる場と伺っております。このサミットが実り多いものとなりますよう、三遠南信地域のさらなる発

展につながることを祈念申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

■ 経済産業省関東経済産業局総務企画部長
畠山一成 様



皆様、こんにちは。本日は、三遠南信サミット 2014 in 遠州が関係各位の御協力により、かくも盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。また、御臨席の皆様におかれましては、日頃より経済産業行政に多大なる御支援、御協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

御承知のとおり、アベノミクスによって日本経済は、長引くデフレからの脱却の兆しを見せつつあります。

一方で、地域の中小企業、小規模事業者の皆様からは、いまだ景気回復を実感できていないという声もお聞きしております。アベノミクスの効果を全国津々浦々の地域にまで行き渡らせて、地域の中小企業、小規模事業者の皆様まで、景気回復の好循環を実感していただくということが喫緊の課題であると思っております。

本年9月には、今までの御挨拶でも御紹介がありましたが、内閣総理大臣を本部長とする「まち・ひと・しごと創生本部」が設置されまして、地域が、それぞれの特徴を生かした自立的で持続的な社会を創生できるよう、戦略の策定等に向けた検討が進められており

ます。こうした中で、三遠南信サミットは今回が22回目ということで、三遠南信地域が一体的な都市圏として発展していくために県境を隔てた3地域の皆様が一堂に会し、しかも長年にわたっていろいろな文化、歴史、交通、生活環境、産業振興等々、多岐にわたる分野で議論を積み重ねてこられたと承知しております。さらに、平成20年には三遠南信地域連携ビジョンを策定され、これまた広い分野にわたって、より具体的な成果に向けた取り組みを強化されてきているということで、まさに広域的な地域活性化の取り組みのモデルの一つであると考えております。特に、新産業の創出につきましては、これまでも三遠南信地域クラスター推進会議の皆様を初めといたしまして、精力的な取り組みがなされてきております。浜松地域における医工連携、次世代輸送機器分野の取り組み、それから飯田地域における航空宇宙分野の地域一貫生産体制の取り組み、さらには豊橋地域における植物工場、農・商・工連携の取り組みなどなど、さらに三遠南信の皆様方が広域にわたって具体的な成果をお出しいただいていると承知しております。

関東経済産業局といたしましても、中部経済産業局とともに、さらに地方整備局、それから農政局の皆様を初めとする関係省庁の皆様とも十分な連携を図りつつ、三遠南信地域における新産業の一層の発展に、ますます貢献してまいりたいと思っております。今後とも、本ビジョンの実践を通じて、三遠南信地域から多くの新産業が創出され、地域活性化のモデルとして国内経済を牽引していただけるということを強く期待しております。

最後になりますが、本サミットの開催に当たりまして多大な御尽力をいただきました鈴木会長、佐原副会長、牧野副会長を初め、関係者の皆様方に心から敬意を表しますとともに、三遠南信地域のますますの御発展並びに本日、御参加の皆様方の一層の御活躍を祈念

いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。

■ 静岡県副知事 高 秀樹 様



皆様、こんにちは。

本日は、第 22 回三遠南信サミット 2014 in 遠州がこのように盛大に開催されましたことを、心よりお祝いを申し上げます。また、日ごろから静岡県の県政全般に関しまして皆様の御協力、御尽力をいただいていることに、この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

司会の方から御紹介がありましたが、本日知事は、沼津市において、富士山を囲む山梨・静岡・神奈川の 3 知事が集う、山静神サミットに出席しております。代理で恐縮ですが、御挨拶をさせていただきます。

三遠南信地域は、古くから塩の道ということで、文化、あるいは生活文化圏、産業ということで協力してこられた歴史が積み重なっている地域だと存じております。加えて、先ほど中部地方整備局長の八鍬さんから御紹介がありましたけれども、インフラ整備が進んでおりまして、ますますこの地域が日本のど真ん中の出会いの場として発展していくだろうということを期待しております。また、静岡県といたしましては、高度成長期に多少機能重視でまいりましたので、沿岸部の防災・減災、あるいは内陸部の企業誘致等々、少子高齢化に合わせてゆとりある県土にしてい

たいと、今後 10 年かけて県土の改革をやっている最中でございます。

また、先ほど中部経済産業局長からも御紹介がありましたが、航空宇宙産業、あるいは医療産業など、ものづくり一辺倒ではなく、八ヶ岳風に強い産業を少しずつ多峰型に育てていきたいということで、産業成長戦略会議を開催しているところでございます。

固い御挨拶は別として、連携と言いますと、とかく互いに寄り合うようなことを想像しがちであります。連携の内側は各地域が自分の持てる力、強みを発揮して、互いにシナジー効果を出していくということが大事だと思います。地域間競争の時代でございますから、例えがよくないですけれども、昨日開催された国盗り綱引きで遠州地域が 4 年ぶりの勝利をおさめられました。9 月には、足柄峠において、小山町が神奈川県南足柄市に惨敗し、1メートル攻め込まれたところでしたので、1メートル勝ち戻して、ようやく県土が安泰したというような状況でございます。

また、県の境を越えてということと同じように産業の境を越えてということで、一つ御紹介しますと、昨年 6 月に国道 23 号の豊橋東バイパスが供用されまして、浜松市のものでづくりと農業生産日本一の田原市、その両方を見学できるということで韓国から高校生が教育旅行に来てくださいました。農業とものでづくりということで、大須賀会頭が進めておられる農・商・工連携というものがありますが、農業と商工業の境を越えた強い連携で、お互いにシナジー効果を発するということが大事だと思っております。そういう意味で、三遠南信地域は全国の県境を越えた連携、あるいは産業の境を越えた連携、そのモデルになることを大いに期待しております。

この三遠南信地域が、さまざまな分野において東西の大都市圏から人々を引き付けて魅力を発信していく、本日のサミットがそういった実り多きものになりますことを祈念いた

しまして、また御来場の皆様方の御多幸を祈念いたしまして私の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。本日は、おめでとうございました。